



〈目標9〉 産業と技術革新の基盤をつくろう

レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

グリーンインフラを活用した地域ブランド化

2015年9月の関東・東北豪雨発生時、渡良瀬遊水地は過去最大となる東京ドーム約70杯分の水(約8,600万m³)を貯留し、利根川をはじめとする河川の氾濫を防ぎ、下流域を水害から守った。足尾銅山の鉱毒問題、谷中村の廃村等に起因して誕生した渡良瀬遊水地は、今回の豪雨において、首都圏を水害から守る重要な存在としてその調整機能を発揮した。湿地の多面的な機能を活用した代表的な「グリーンインフラ」ともいえる渡良瀬遊水地は、絶滅危惧種183種を含む約3,000種の動植物が集う生物多様性の宝庫でもあり、2012年7月3日にラムサール条約湿地に登録された。

登録後、小山市では総合政策部内に「渡良瀬遊水地ラムサール推進課」を設置し、渡良瀬遊水地を最大の地域資源として積極的に地域活性化、地域ブランド化に活用関連施策を展開している。「賢明な活用の3本柱」として、①治水機能の確保を最優先としたエコミュージアム化、②環境にやさしい農業を

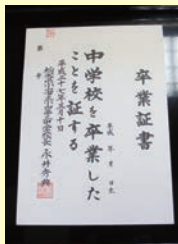
地場産業の推進



ふゆみずたんぼ米

■ 農業の振興

無農薬・無化学肥料栽培の「ラムサールふゆみずたんぼ米」と、その米で醸造した日本酒「この酒、小山のラムサールふゆみずたんぼ米」をブランド化。農家と酒蔵、小売業者の連携により、協力農家の増加、ふゆみずたんぼの面積拡大を図りながら、首都圏での販促活動等も小山市が積極的に支援。



ヨシ紙を使った卒業証書

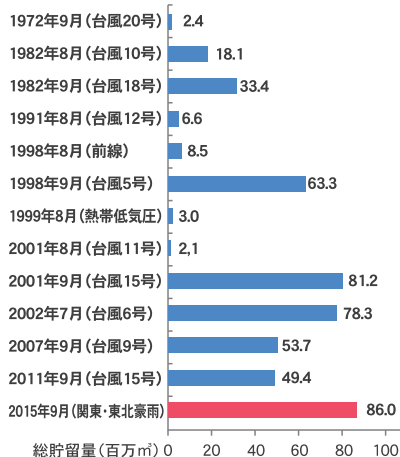
■ ヨシの活用

湿地の資源「ヨシ」について、2013年に、市内の小中学校38校へのヨシズを設置して日よけ効果の調査を実施。2015年からは、市内全小中学校でヨシ紙を使った卒業証書を作成して授与するなど、環境教育と地場産業の振興をリンクさせた取り組みを展開。

渡良瀬遊水地

- 面積：約33km²
- 周囲延長：約30km
- 総貯水容量：約17,180万m³

過去の洪水実績の貯留量



出典：国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所 データより作成

中心とした地場産業の推進、③コウノトリ・トキの野生復帰、を掲げている。そして、これらを地域住民、農家、NPO、事業者など多様な主体との協働によって進めているのが特徴だ。

エコミュージアム化に向けた動きとして、住民の想いを込めた「エコミュージアムプラン」が、国土交通省の「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画(平成22年3月策定)や、小山市の「渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画(平成27年3月策定)」に繋がった。外来種除去活動などの環境保全活動とともに、国内外からの訪問者に提供するヨシ舟乗船、ミニヨシづくりなどの体験・観察プログラム、エコツアーの開発を地元NPO等と協力して進めている。

並行して地場産業を推進するために、「ラムサールふゆみずたんぼ米」による農業の振興と、湿地の資源である「ヨシ」の活用に市内小・中学校と連携して取り組んでいる。

「2016年9月関東・東北豪雨」による出水



出水時の第2調節池(2015年9月10日)



平常時の第2調節池(2015年9月7日)



- 「渡良瀬遊水地」の洪水調整機能の確保、湿地保全活動の持続的な実施。
- ラムサール条約に基づく賢明な活用に関連した持続的な地場産業の推進による地域の活性化。
- 行政・NPO・地域住民・農家・企業が様々な形態で連携した取り組み。

栃木県小山市

栃木県第2の都市である小山市には、優れた地域資源として、日本最大の遊水地「渡良瀬遊水地」がある。4県(栃木県・群馬県・茨城県・埼玉県)4市2町(小山市、栃木市、野木町、板倉町、古河市、加須市)にまたがる。渡良瀬川・思川・巴波川の3河川の洪水を3つの調節池でため込み、下流の利根川に影響を与えないようにしている。

Data

2016年1月1日現在

- 人口：166,320人
- 文化と歴史：本場結城紬、小山評定
- 立地利便性：東京圏から60km、東北新幹線東京駅から42分。国道、鉄道が交差する北関東の交通の要衝。

[小山市公式ホームページ] <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kanko/kanko/watarase/>

[わたらせ自然ミュージアム] <http://www.watarase-museum.net/>

